

令和2年度 東京都立葛西工業高等学校 学校経営計画

02 葛西工高第1号
令和 2年 4月 1日
東京都立葛西工業高等学校長
福田 健 昌

1 目指す学校

優れた工業技術者・技能者の努力によって、我が国は工業立国として目覚ましい発展を続けてきた。更なる発展のためには、引き続いて工業技術者・技能者の育成が不可欠である。

本校は、創立以来ものづくり人材を育成・輩出し、東京の産業の発展を支える役割をはたしてきた。校訓を『真理を愛し、勤労をたつとび、責任を重んずる』と掲げ、58年間に渡りゆるぎないものとしている。技能を重視した工業高校のリーダー校として、基本的人権の精神を涵養させる。また、生徒一人一人が、「義務と責任」を自覚するとともに、豊かな創造性と独創性を発揮し地域に貢献する学校を目指す。また、工業高校は普通科高校と比較して、積極的に志望する生徒の割合が少ない課題が明らかとなっている。全教職員が協力体制をもって、積極的な募集活動を行う。新型コロナウイルス感染症対策を充実させ、健康で安全な学校を目指す。

- (1) 広報活動を充実させ、産業界のニーズに応えられる人材を育成する。
- (2) 学習指導、進路指導、生活指導を充実させ、心身共に健康な生徒を育成する学校。
- (3) 工業技術者・技能者としての基礎・基本を習得し、キャリア教育を通して工業人としての職業観・勤労観を育む学校。
- (4) 学校行事、部活動、資格取得、ボランティア活動、地域活動へ積極的に参加し、潜在能力を発現させコミュニケーション能力を高め明るく元気で挨拶のできる生徒を育成し「生きる力」を高めさせる。個性・能力を一層伸ばして、自信と誇りのもてる活力ある学校。
- (5) 「ものづくり教育」と「防災」の拠点として、地域から期待される学校。
- (6) 全教職員が『ライフ』と『ワーク』を両立させ心で支えあい、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスが実現され、教職員個人にとっても組織にとっても、メリットのある関係を築く。

2 中期的目標と方策

デュアルシステム科設置校として、工業人として未来を培うためキャリア教育を推進する。設備拠点校実習を充実させて、地域の工業教育の中核を担う。

工業人として「時を守り、場を清め、礼を尽くす」教育と「整理・整頓・清潔・清掃・しつけ」5S教育を全ての教育活動で推進していく。

- (1) 明確な進路目標を立て、基本的生活習慣を確立させて規範意識を高め、自主・自律の精神を育てる。
 - ① 生徒全員にインターンシップを体験させ、進路目標を明確にする。 (進路指導)
 - ② 欠席・遅刻・早退を防止する指導を組織的に進め、1年間の皆勤・精勤者60%以上を目指す。特に、遅刻常習者を減少させるため、遅刻指導の充実・強化を図る。 (生活指導)
 - ③ 社会のルールやマナーを守り、基本的生活習慣を確立する指導を徹底させる。 (生活指導)
 - ④ 学校保健計画をもとに、生徒自ら自己の安全と健康を守る力を育成する。 (健康づくり)
 - ⑤ 学校図書館運営計画をもとに学校図書館を活用し、読書活動推進を図る。 (読書活動)
- (2) ものづくり教育を推進し、工業人としての技能・技術を習得させ、健全な職業観・勤労観を育み、無業者ゼロを目指す。
 - ① 基礎的・基本的な実験・実習を通して体験的に理解させ、工業技能・技術の習得を図る。 (学習指導)
 - ② 職業資格、検定・発表会に積極的に挑戦し、卒業までに3資格以上取得させる。 (学習指導・進路指導)
 - ③ 全教科・科目及びホームルーム活動において環境教育に取り組み、身の回りの環境整備を推進し、美化意識を醸成する。 (学習指導・生活指導)
 - ④ 地域の産業界や職業能力開発センターと連携し技能・技術指導を行う。 (学校経営・組織体制)
- (3) 自己の能力を最大限発揮させ、自信と誇りを培い、全員進級・卒業を目指す。
 - ① 努力している生徒、成果をあげた生徒を認め、褒め、励ます指導を行う。 (生活指導・進路指導・学習指導)
 - ② 自校の学力スタンダードに基づき、授業力向上を推進し、生徒の基礎学力の定着と一層の学力向上を推進する。 (学習指導)
 - ③ 自校の技能スタンダードに基づき、生徒に身に付けさせるべき技能・技術を明確にして、基礎技能を習得させ、一層の技能向上を図る。 (学習指導)
 - ④ 生徒全員の部活動加入を目指し、部活動の内容を一層充実・改善していく。 (生活指導・学校経営)

- (4) 地域の幼・小・中・高、特別支援学校等との交流・連携・協力関係を推進する。
- ① 全職員による広報活動を実施する。工業高校を知ってもらうための中学校訪問、ホームページの充実、体験入学、学校説明会等、積極的な広報活動を行う。(募集・広報活動)
 - ② 設備拠点校実習を生かした実習の連携を行う。(学校経営・組織体制)
 - ③ 地域の行事に積極的に参加し、地域並びに幼・小・中学校・特別支援学校等との交流・連携を推進する。(学校経営・組織体制)
 - ④ 教科「人間と社会」の活動を通して、地域の一員としての自覚が高い生徒を育てる。(学習指導・生活指導・進路指導)
 - ⑤ 中学生を対象とするスポーツ大会や各種ものづくり体験の拡充を図る。(募集・広報活動)
 - ⑥ 台風等の風水害に対する学校設備の安全のため、対策に取り組む。(防災)
- (5) デュアルシステム科の推進にあたり各科及び各分掌との連携・協議を推進する。
- ① 教育内容の充実、協力企業との連携を強化するとともに、中学生・保護者にとって魅力ある広報活動に努める。

3 今年度の取り組み目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

生徒の実態に即し、P（計画）→D（実施）→C（評価）→A（改善）サイクルを定着させ、常に改善・充実を図る。

いじめ・差別・暴力そして体罰は、絶対に認めない・許さない・見逃さない方針を周知・徹底し、安心して学び、一人一人が力を発揮できる教育環境創りに学校を挙げて取り組む。

① 学習指導

- 1 生徒の現状に基づいて、各教科・科目の授業内容を精選し、基礎・基本を重視した自校の学力スタンダードを定め、学ぶ意欲を高め、学力の定着を図る。
- 2 工業人として身に付けさせるべき技術・技能の目標を明確に定めた技能スタンダードに基づき、基礎的技能を習得させるとともに、学習意欲を高めさせ技能向上を図る。
- 3 授業時数の確保に努め、習熟度別授業、少人数授業等により、生徒の理解度に応じた授業を展開し、基礎学力の定着を図るとともに発展的内容を取り入れる。
- 4 学校全体で授業規律の確保に努め、各教科・科目で、基本的な学ぶ姿勢の指導を徹底する。
- 5 生徒による授業評価と指導法の研究を実施するとともに、教員相互の授業見学や公開研究授業・研究協議会・校内研修等を行い、授業力向上に努め、授業改善を進める。
- 6 専門教科においては、実験・実習を通して理論と基礎技能・技術を身につけさせる指導を充実させ、自校で実施できる資格取得講習会の機会を拡充させる。また、地域産業界（熟練講師）や職業能力開発センターとの人材交流等の有効活用を図り、教育効果を高める。
- 7 生徒が自ら調べ、考え、発表（プレゼンテーション）できる能力を伸長させる。
- 8 教科「人間と社会」の活動を通して他人に共感し、社会に役立つ喜びを体感させ、進んでボランティア活動や奉仕活動に参加する生徒を育成する。
- 9 ICT機器を積極的に活用できる能力を高めるとともに情報モラルを身に付けさせる。
- 10 体力テストを行い生徒の体力向上に向けた指導法の改善を図るとともに、オリンピック・パラリンピック教育の推進を図る。

② 進路指導

- 1 人間としての在り方・生き方の指導を充実させ、自己実現に向ける意識を高める。このため、毎学年進路調査を実施し統計処理して公表する。
- 2 進路指導部・学年を中心に外部講師を活用するなど、進路ガイダンスを一層充実させる。
- 3 2学年全員を対象としたインターンシップを拡充させる。
- 4 キャリアガイダンス（1年）・インターンシップ（2年）等のキャリア教育を充実させる。

③ 生活指導

- 1 遅刻指導、服装・頭髪指導等の改善・充実を進め、基本的生活習慣の確立と規範意識の指導を徹底して、場に相応しい振る舞いのできる生徒を育成する。
- 2 日常の清掃活動等を通して、教室美化・校内美化に自ら目を向ける指導を行い、施設や設備を大切に扱う態度を育てる。また、ごみの分別を図ると共にリサイクル教育を徹底する。
- 3 自己の可能性を引き出し、個性を発見・発揮できる機会を増加させるため、学校全体で、部活動を奨励するとともに、学校行事を一層精選・充実させる。
- 4 努力した生徒、成果をあげた生徒を認め、励ます、褒める指導を行う。集会で表彰を行う。
- 5 いじめ・差別・暴力をなくすため、スクールカウンセラーを一層活用し、養護教諭・学年・生活指導部との連携を強化して、教育相談機能を高め、未然防止・早期発見に努める（1学年全員がスクールカウンセラーと面談する）。

- ④ 特別活動・部活動
 - 1 生徒自ら自主的に運営できる能力を育成するとともに、加入率を高める。
(アルバイト原則禁止を徹底させる)
 - 2 生徒会活動の活性化を図り、体育大会・江紫祭等の学校行事を一層充実させ、自主・自律の精神を涵養する。
 - 3 校歌指導の充実を図り、入学生に上級生自らが指導できる体制とする。
 - 4 地域の清掃活動等の実践により、生徒の社会貢献や思いやりの心を育み、豊かな人間性を育成する。また、地域との連携を一層強化し、愛される学校づくりを推進する。
- ⑤ 健康づくり
 - 1 学校におけるスポーツ活動全般の支援を進め、心と身体を鍛える。
 - 2 学校保健計画に基づき、健康増進・安全指導を充実させる。保健だよりの発行等を通じて、健康全般への意識を向上させる。万全なるインフルエンザ対策を講じる。
 - 3 防災教育、交通安全教育、薬物乱用防止教室、普通救急救命講習会等を充実させ、自他の健康・安全を守る力を育成し、生命の尊厳について認識させる。
 - 4 「食育」に関して、家庭と連携し生徒自らが健康や食生活を考える健康指導を充実させる。
 - 5 特別な支援が必要な生徒への合理的配慮について、具体的な対応内容は、生徒とその保護者と話し合って定める。
 - 6 自殺対策基本法及び自殺総合対策大綱に基づき、自殺対策に資する教育の推進に向けた取り組みを行う。
 - ①命の大切さを実感できる教育
 - ②SOSの出し方に関する教育
 - ③心の健康の保持に係る教育
- ⑥ 募集・広報活動(地域交流等)
 - 1 募集対策として、中学校訪問、学校説明会、体験入学、入試説明会、個別相談会等に全職員で組織的に取り組む。
 - 2 広報活動として、中学校訪問、出前授業、上級学校訪問等に組織的に対応するとともに、江戸川区を中心に地域の行事へ生徒を参画させ地域貢献を推進する。
 - 3 学校公開、年2回の授業公開週間を実施し地域に開かれた学校づくりを推進する。
 - 4 江戸川区教育委員会、小・中・高校、産業団体等との連携・交流を推進する。
 - 5 中学生を招くスポーツ大会・講習会を継続実施するとともに一層の拡大充実を図る。
- ⑦ 学校経営・組織体制
 - 1 インターンシップにおける受入れ企業の新規開拓を推進する。
 - 2 学校運営連絡協議会と学校評価委員会、学校保健委員会の充実を図る。
 - 3 設備拠点校実習として、教員研修の実施をする。
 - 4 学校開放事業を拡充し、一層、施設開放・公開講座を充実させ、広く開かれた学校づくりを推進する。
 - 5 副主任制度を定着させるとともに主幹教諭の役割と責任を明確化させ、組織力の向上と一層の活性化を図る。
 - 6 学校経営計画に基づく各分掌における組織目標の確立を図る。
 - 7 校舎内外の環境整備を進め、生徒の作品を展示できるスペースを設置するとともに、樹木の植樹・草花の植え込みを推進する。また、老朽化した施設設備の改修・修繕・補修を進めるとともに、新たに必要な設備の導入を図る。
- ⑧ 学校図書館の活用と読書活動推進
 - 1 授業や実習等のレポート課題での図書館の活用を促進するため、関係教科および教職員と連携を図る。
 - 2 貸出冊数の向上と未読者率の減少のため、選書と広報活動等の工夫し利用の促進を図る。

(2) 重点目標と方策

- ① 基本的生活習慣を確立して、授業に積極的に取り組む意欲と態度を高めさせ、進級率を増加させ、転・退学者を減少させる。
 - 1 認め・励ます・褒める指導を一層充実させ、生徒の学ぶ意欲を育てる。
 - 2 学年と分掌間の連携を密にし、生徒の基本的生活習慣の確立を徹底する。
 - 3 生徒の課題解決のため、保護者との連絡を密にとり、協力・連携を図る。
 - 4 非行を未然に防ぐ指導を充実させ、特別指導の減少を図る。
 - 5 皆勤・精勤者を増加させ遅刻指導の一層の改善・充実を進め、遅刻常習者の減少を図る。
 - 6 部活動の加入率を向上させ、一層の活性化を進め帰属意識を高めさせる。

- ② 就職希望達成率100%を維持し、卒業時の未就業者を無くす。
- 1 卒業生・市民講師を活用した進路ガイダンスを年間3回以上行い、自己実現に努めさせる。
 - 2 東小松川工場会等の企業見学会・講演会を実施する。
 - 3 インターンシップ協力企業を増加させ、全生徒の参加を目指す。
- ③ 国家資格取得者、検定合格・認定者を増加させる。
- 1 関連する授業等を活用し、各教科における資格取得指導を充実させる。
 - 2 資格取得、検定、ものづくりコンテスト等に積極的に挑戦する意識・意欲を高めさせる。

(3) 数値目標 全て前年度以上を目標とする。(近年の実績を示した)

- ① 進級率の増加 目標 1年生の進級率(90%) 2・3年 昨年度以上の実績
進級者(近年の経緯)

	1学年	2学年	3学年	合計
25年度	154名 84.6%	145名 91.8%	157名 98.8%	456名 91.4%
26年度	173名 95.6%	142名 90.4%	143名 98.6%	458名 94.8%
27年度	169名 94.4%	169名 97.1%	138名 97.1%	476名 96.1%
28年度	175名 96.2%	162名 95.9%	169名 100.0%	506名 97.3%
29年度	172名 96.1%	161名 91.5%	161名 99.4%	494名 95.6%
30年度	154名 86.0%	165名 95.9%	161名 100.0%	480名 93.8%
31年度	162名 91.0%	149名 96.8%	165名 100.0%	476名 95.8%

- ② 退学者の減少・目標0名
退学者数(近年の経緯)

	1学年	2学年	3学年	合計
22年度	20名	14名	4名	38名
23年度	11名	16名	1名	28名
24年度	14名	9名	2名	25名
25年度	22名	9名	2名	33名
26年度	6名	9名	1名	16名
27年度	4名	2名	3名	9名
28年度	2名	2名	0名	4名
29年度	7名	10名	1名	18名
30年度	21名	4名	0名	25名
31年度	3名	2名	0名	5名

- ③ 皆勤・精勤者の増加と遅刻者(10回以上)の減少
1 皆勤・精勤者の推移(目標50%)

	1学年	2学年	3学年	合計
25年度	65名 35.2%	38名 24.1%	56名 35.2%	159名 31.9%
26年度	94名 51.9%	57名 36.4%	28名 19.3%	179名 32.1%
27年度	52名 29.1%	56名 32.4%	56名 39.4%	164名 39.2%
28年度	67名 36.8%	49名 29.0%	36名 21.3%	152名 29.2%
29年度	72名 11.2%	35名 19.9%	41名 25.3%	96名 18.6%
30年度	65名 13.2%	77名 14.7%	56名 11.4%	198名 40.4%
31年度	56名 31.5%	45名 29.2%	61名 37.7%	162名 32.8%

2 遅刻10回以上の生徒（目標20%以下）

	1 学年	2 学年	3 学年	合計
25 年度	36 名 19.9%	53 名 33.4%	57 名 35.8%	146 名 29.3%
26 年度	57 名 31.5%	61 名 38.9%	62 名 42.8%	180 名 37.3%
27 年度	57 名 31.8%	29 名 16.7%	34 名 23.9%	120 名 24.3%
28 年度	48 名 26.4%	84 名 49.7%	87 名 51.5%	219 名 42.1%
29 年度	39 名 21.9%	51 名 30.0%	61 名 37.7%	151 名 26.3%
30 年度	45 名 25.1%	20 名 11.6%	40 名 24.8%	105 名 20.5%
31 年度	25 名 14.0%	40 名 30.0%	19 名 11.7%	84 名 17.0%

④ 特別指導件数・対象者数の減少 目標・前年度以下
特別指導件数・対象者数の推移

	1 学年	2 学年	3 学年	合計
25 年度	1 4 件 1 4 名	1 2 件 1 2 名	1 件 2 名	2 7 件 2 8 名
26 年度	1 件 1 1 名	4 件 7 名	1 件 1 名	6 件 1 9 名
27 年度	6 件 7 名	5 件 7 名	3 件 4 名	1 4 件 1 8 名
28 年度	8 件 1 0 名	5 件 9 名	5 件 5 名	1 8 件 2 4 名
29 年度	2 件 3 名	5 件 1 1 名	3 件 6 名	1 0 件 2 0 名
30 年度	5 件 1 3 名	4 件 1 0 名	4 件 1 2 名	1 3 件 3 5 名
31 年度	3 件 1 3 名	2 件 5 名	2 件 1 2 名	7 件 3 0 名

⑤ 部活動加入率 昨年度以上の実績（年度当初の加入率を継続する）

加入率	5 月期	2 学期末
23 年度	85%	未調査
24 年度	80%	未調査
25 年度	82%	未調査
26 年度	87%	56%
27 年度	88%	67%
28 年度	83%	82%
29 年度	86%	74%
30 年度	80%	81%
31 年度	87%	87%

⑥ 就職・進学希望達成率 引き続き 100%
就職希望達成率 10年連続 100%達成

	就職 希望者	就職 内定者	進学 希望者	進学 決定者	内定 合計	卒業者 数
22年度	103名	103名	34名	32名	135名	137名
23年度	95名	95名	51名	48名	143名	146名
24年度	91名	91名	50名	47名	138名	141名
25年度	99名	99名	58名	49名	148名	157名
26年度	106名	106名	37名	36名	142名	143名
27年度	109名	109名	28名	28名	137名	138名
28年度	127名	127名	32名	32名	159名	169名
29年度	121名	121名	31名	31名	130名	161名
30年度	119名	119名	32名	32名	160名	161名
31年度	127名	127名	34名	34名	161名	165名

⑦ 第2学年におけるインターンシップ参加者数の増加
インターンシップ協力企業と参加者の推移

	協力企業	参加者	就職者
22年度	15社	32名	0名
23年度	38社	71名	4名
24年度	60社	84名	9名
25年度	76社	113名	10名
26年度	76社	117名	11名
27年度	67社	93名	10名
28年度	93社	141名	13社
29年度	83社	133名	22社
30年度	71社	138名	19社
31年度	136社	142名	20社

⑧ 各種資格等取得者数

1 ジュニアマイスター顕彰

種 別	目 標	26年度 実績	27年度 実績	28年度 実績	29年度 実績	30年度 実績	31年度 実績
ゴールド	前年度以上の実績	1名	3名	0名	0名	4名	0名
シルバー	前年度以上の実績	9名	10名	2名	5名	0名	1名
ブロンズ	—	—	—	—	—	3名	1名
特別表彰	前年度以上の実績	0名	1名	0名	0名	0名	0名
計	前年度以上の実績	10名	14名	2名	5名	0名	0名

※ジュニアマイスターブロンズは、平成30年度より新設された。

2 国家資格並びに各検定等

資 格・免 許 等		目 標	26年度 合格者	27年度 合格者	28年度 合格者	29年度 合格者	30年度 合格者	31年度 合格者
危険物 取扱者	丙種	前 年 度 以 上	22名	1名	6名	3名		5名
	乙種第1類			1名				
	乙種第4類		3名	3名	5名	5名		3名
	乙種第5類			1名				
	乙種第6類			1名				
消防 設備士	乙種第4類	以 上	2名	1名				
	乙種第7類		10名	15名		7名		

工事 担任者	A I 第3種		8名	8名	2名	6名		
	DD第3種		5名	1名	9名		3名	6名
	DD第1種			2名				
	A I 第3種		2名	2名				
	A I ・ DD総合			2名				
第2種電気工事士			3 4名	2 2名	2 7名	1 5名	1 8名	2 4名
第1種電気工事士				3名		1名		
技能士	建築大工3級			1 5名	1名			3名
	とび 2級			1名		1名		
	とび 3級		4名	6名	2名	1 3名	7名	7名
	鉄筋施工3級					3名	1名	3名
	普通旋盤作業3級					4名	8名	
品質管理検定（QC検定）				1名				
ガス溶接技能講習			9 5名	8 8名	5 9名	7 1名	8 4名	4 3名
アーク溶接特別教育				9 0名		1 1 8名		5 3名
フォークリフト運転特別教育					1 2 2名			
高所作業車運転特別教育			5 3名			4 8名		
小型車両系建設機械特別教育				8 9名			6 2名	
玉掛・移動式クレーン特別教育			6 5名		1 2 3名		6 3名	5 5名
2級建築施工管理技術者検定				5名	6名	2名	1名	
日 本 語 ワー プロ検定	準2級			1名		8名		
	3級		5名	3名		4名		
情報処理 技能検定	2級		5名					
	準2級					1 0名		
	3級					9名		
パソコン 検定（P検）	3級					3名	3名	2名
	4級			3 6名	3 0名	3 3名	4 0名	3 4名
日本漢字 能力検定	準2級					4名	1名	
	3級					7名	2名	
	4級					1 9名	1名	
	5級					7名		
計算技術 検定	1級				1名			
	2級			2名	1名	1名		
	3級		1 2 6名	1 0 0名	1 6 2名	1 2 2名	1 2 6名	1 3 1名
	4級		1 0 5名	1 1 9名	1 3 8名	1 3 4名	7 9名	3 2名
情報技術 検定	2級				6名	5名	1 2名	
	3級		4 6名	5 7名	3 3名	6 5名	7 4名	4 7名
I Tパスポート							6名	
基礎製図検定			2 1名	2 4名	2 4名	2 4名	4 4名	2 8名
パソコン利用技術検定3級								2 8名
建設業経理事務士4級								1 4名
延べ人数			6 4 8名	6 5 9名	8 6 8名	7 5 7名	6 3 5名	5 1 8名